

# 難波田城跡(富士見市)

ここは難波田城公園



「難波田氏館趾入口」とある石柱





# 富士見市立難波田城公園ご案内

凡例

- 園路
- 池・水路
- 建物
- 建物入口
- トイレ



▲ 現在地



## 利用案内

- 園路 園路は、園路の中心線まで通行できます。
- 池・水路 池・水路は、池・水路の中心線まで通行できません。
- トイレ トイレは、園路の中心線まで通行できません。
- 建物入口 建物入口は、建物入口の中心線まで通行できません。
- 建物 建物は、建物入口の中心線まで通行できません。
- 礎石 礎石は、礎石の中心線まで通行できません。
- 礎礎 礎礎は、礎礎の中心線まで通行できません。
- 礎礎 礎礎は、礎礎の中心線まで通行できません。

ご利用にあたって、次のことにご注意ください。

- 犬等は連れて来ないでください。
- 火気は禁止です。園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。
- 園路の中心線まで通行できません。

この地図は目的に応じてご利用ください。

難波田城跡ゾーン、難波田城資料館、古民家ゾーンからなる

# 案内





曲輪3→

←十五院墓地

←蓮池

←曲輪2

←本城門

←曲輪1

現在地

0 10 20 50m

## 難波田氏の歴史と難波田城

平安時代の終わり頃から、武蔵国には「武蔵七党」と呼ばれる武士団が活動していました。その一つの村山党の中心に、金子氏がいました。金子小太郎高範は、鎌倉時代の承久の乱に参戦して討ち死にしました。その恩賞として幕府から、高範の子孫に難波田（南畑）の地が与えられ、その子孫が「難波田氏」を名乗るようになりました。

南北朝時代には、羽祢蔵合戦で高麗経澄の軍勢と戦って敗れましたが、戦国時代になると難波田弾正善銀が扇谷上杉氏の重臣として活躍しました。しかし、天文15年（1546）の河越夜戦で北条氏と戦い、敗れて討ち死にしました。その後、難波田一族は北条氏の家臣となり、難波田の土地は北条氏の家臣上田氏が支配しました。しかし、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされたために難波田城は廃城となりました。

難波田城は江戸時代に作られた絵図などに描かれています。城は最初小さなものでしたが、戦国時代に難波田弾正善銀が活躍する頃に、大規模に改造されたと考えられます。江戸時代には、城跡に修験寺院の十五院が建てられました。



【難波田弾正善銀合戦図】



【流野文庫難波田古絵図】

難波田氏は武蔵七党の村山党の流れをくむという

## 難波田氏の歴史と難波田城

平安時代の終わり頃から、武蔵国には「武蔵七党」と呼ばれる武士団が活動していました。その一つの村山党の中心に、金子氏がいました。金子小太郎高範は、鎌倉時代の承久の乱に参戦して討ち死にしました。その恩賞として幕府から、高範の子孫に難波田（南畑）の地が与えられ、その子孫が「難波田氏」を名乗るようになりました。

南北朝時代には、羽祢蔵合戦で高麗経澄の軍勢と戦って敗れましたが、戦国時代になると難波田弾正善銀が扇谷上杉氏の重臣として活躍しました。しかし、天文15年（1546）の河越夜戦で北条氏と戦い、敗れて討ち死にしました。その後、難波田氏一族は北条氏の家臣となり、難波田の土地は北条氏の家臣上田氏が支配しました。しかし、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされたために難波田城は廃城となりました。

難波田城は江戸時代に作られた絵図などに描かれています。城は最初小さなものでしたが、戦国時代に難波田弾正善銀が活躍する頃に、大規模に改造されたと考えられます。江戸時代には、城跡に修験寺院の十玉院が建てられました。



城跡ゾーン入口



遠方に見えるのは資料館



手前の東屋の辺りが曲輪2



右手は「復元木橋」



木橋の手前が曲輪3、向こう側が曲輪2

ふく げん き ばし  
復 原 木 橋

この木橋は平成8年の発掘調査で発見された、木橋跡(写真)を復原したものです。曲輪2と曲輪3を突出させて、この部分に橋を架けて2つの曲輪を結んでいます。

橋の幅は、曲輪2側が1.8mに対し、曲輪3側が2.7mもあります。これは曲輪2(馬出曲輪)にいる城兵が、曲輪3に攻め出すのに便利で、反対に敵兵が攻めにくいようにするためと考えられます。



水堀と曲輪3(水堀の左手)を見る



水堀と土塁/三重の堀と土塁に囲まれた平城



この辺りは曲輪2





## くる わ 曲 輪 2

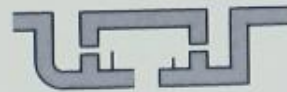
くる わ  
曲輪1 (本丸) の出入り口前方にある曲輪です。  
これは戦いに際して、この曲輪に城兵を入れる  
うま だし くる わ  
「馬出曲輪」と考えられます。

馬出にはいろいろな形がありますが、難波田城  
ではこのように独立した曲輪になっています。周  
囲に土塁を巡らし、外から中が見えないようにし  
ていました。ここから曲輪3には木橋きばしを渡ってい  
きました。

### 馬出の種類



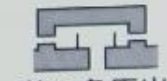
辻の馬出



真の馬出

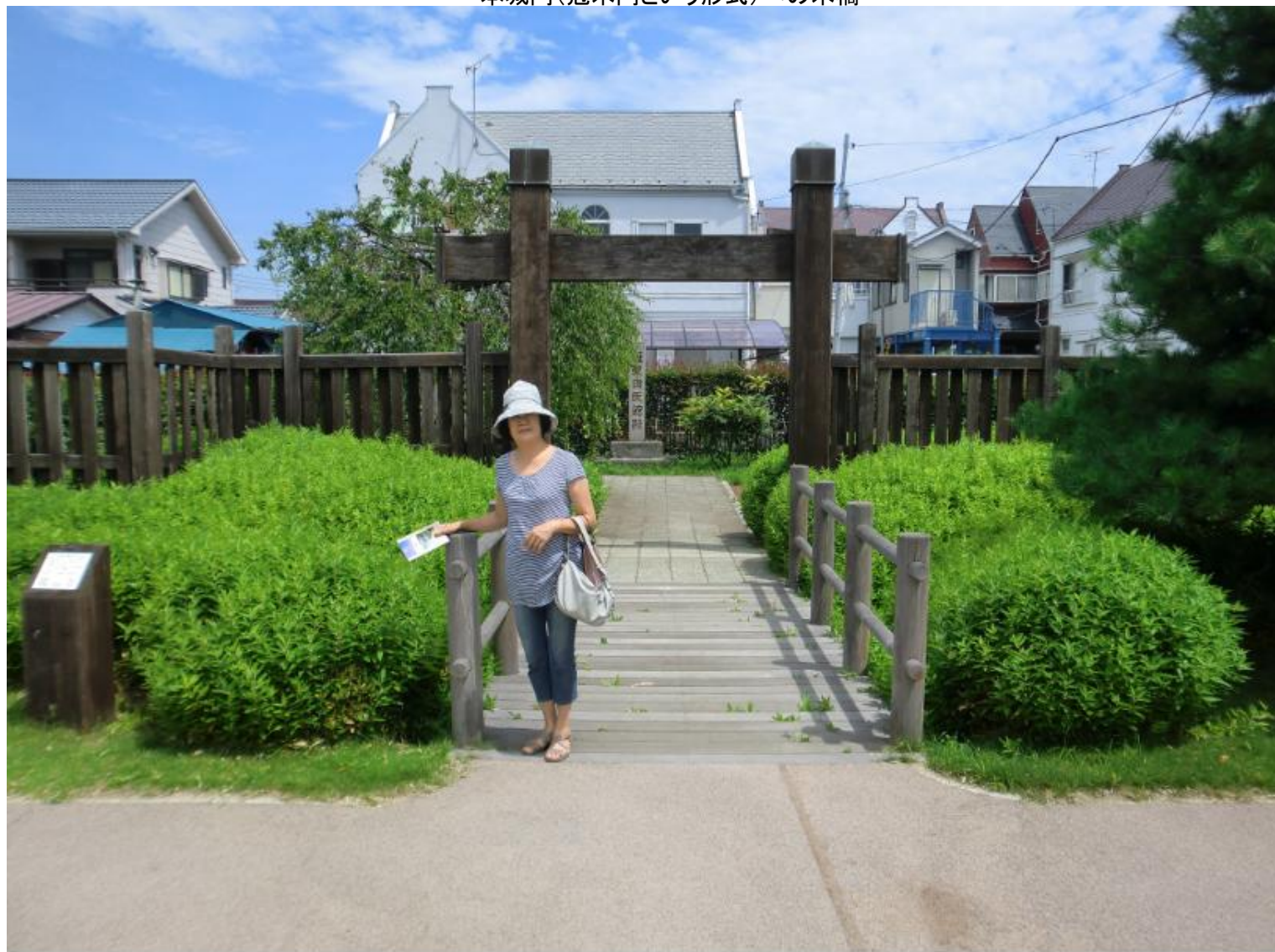


草の丸馬出



草の角馬出

本城門(冠木門という形式)への木橋



本城門を潜った曲輪1にはこのような石碑が立つ



難波田直治郎墓とある



曲輪1はこれらの石碑の裏手に広がっていたようだ



曲輪1



## くる わ 曲 輪 1

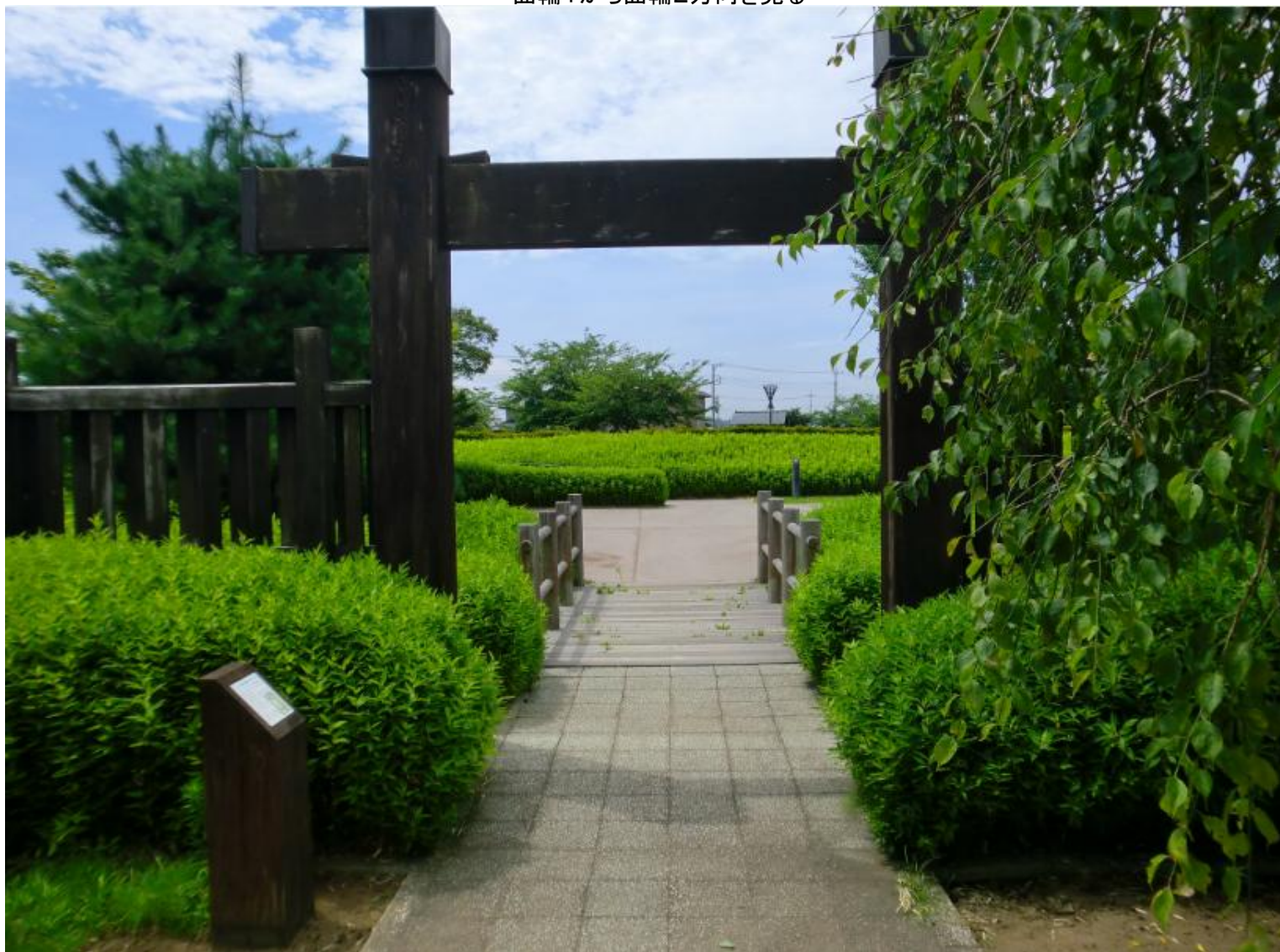
曲輪1は、城主が住んでいた城の中心部です。  
古絵図には「本城」<sup>ほんじょう</sup>と記され、東西45m、南北30mの規模があります。

難波田城最古の14世紀頃の大形建物跡や、  
多くの遺物<sup>いぶつ</sup>が地下1.5mの部分から発掘されました。  
その後、城が拡張されるにしたがって、盛り土されていきました。

曲輪を囲っていた土塁は、一部が残っているだけです。



曲輪1から曲輪2方向を見る

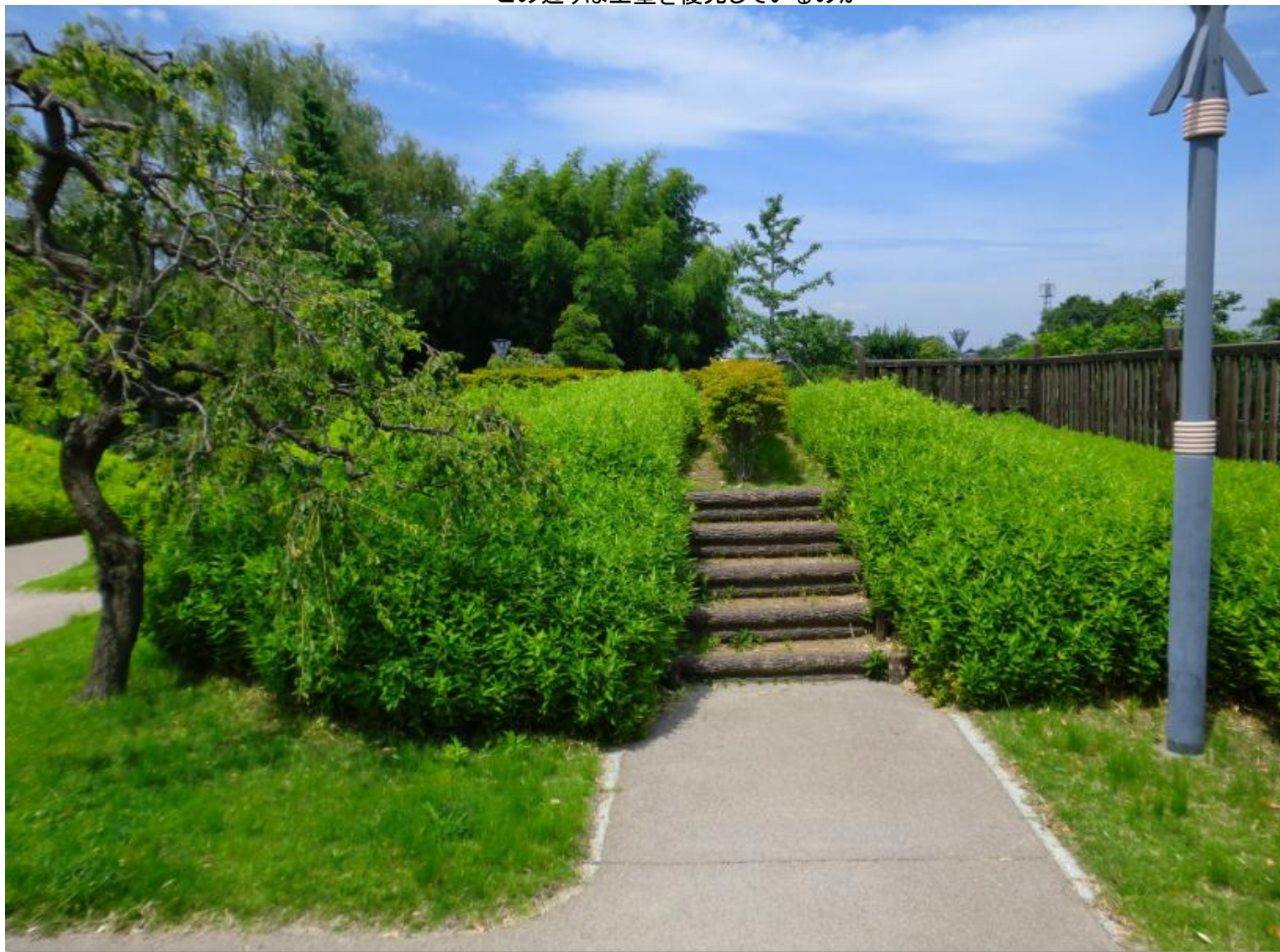


曲輪2から墓地の方へ進む





この辺りは土塁を復元しているのか





この左手が墓地



じゅう ぎよく いん ほ ち

## 十玉院墓地

十玉院は、中世に栄えた修験道寺院しゅげんどうですが、戦国時代に一時衰えました。江戸時代前期に、難波田氏の縁者という理由から、幕府が難波田城跡に移転・再興することを許可しました。

この墓塔は、十玉院の代々の院主やその関係者のものです。明治5年(1872)の修験道廃止令によって、十玉院は廃寺となりましたが、院主の上田氏は、その後に埼玉県議会議員などで活躍しました。

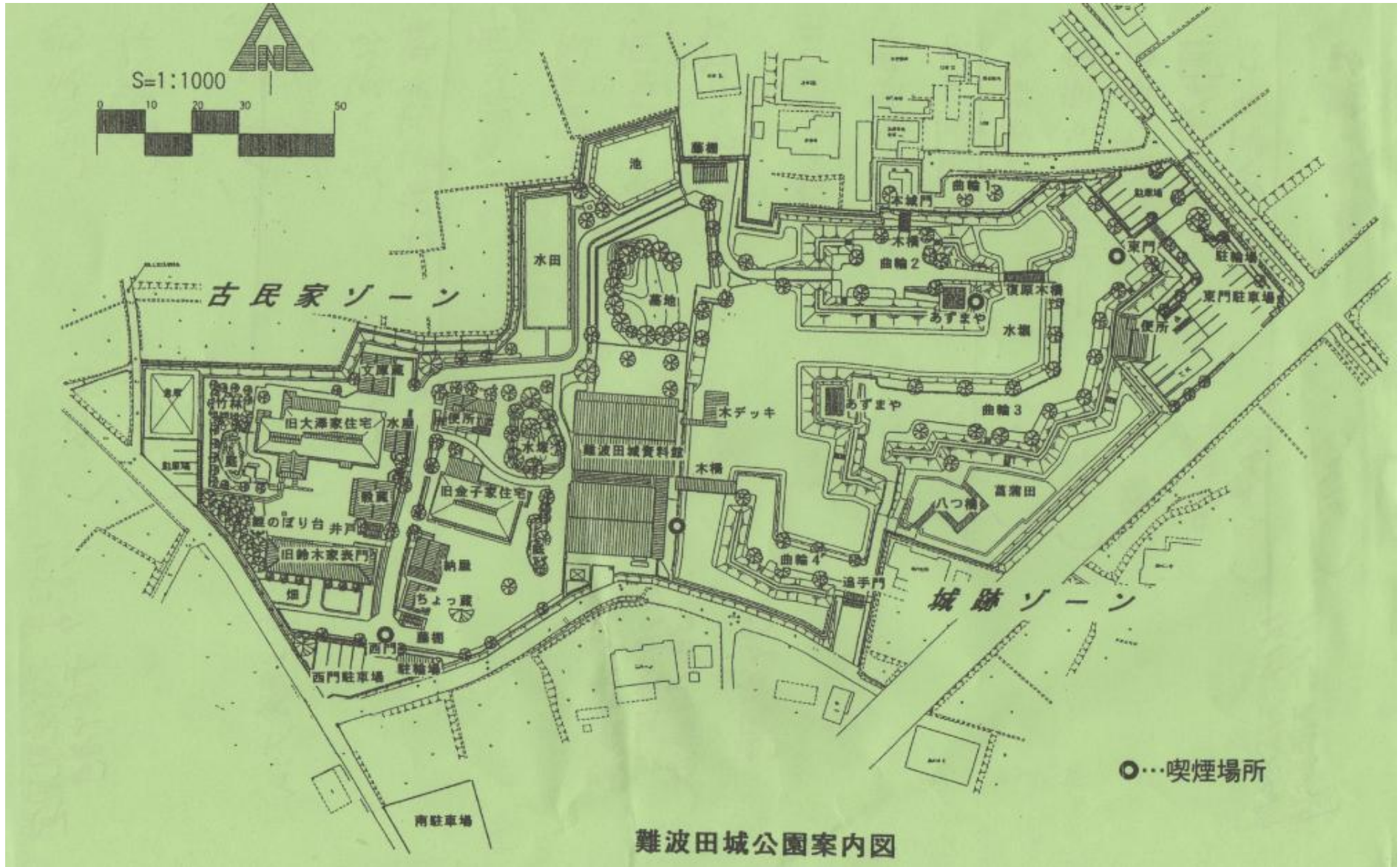






正面は資料館





難波田城資料館リーフレットより



資料館から城跡ゾーンを見る





右手は曲輪4



曲輪4



追手門(冠木門に屋根をかけた棟門という形式)



正面の東屋辺りは曲輪3



左手は曲輪3



菖蒲田を見る





ここは食い違い小口



## く ちが こ ぐち 食い違い小口

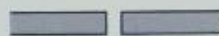
城は敵の攻撃に対して守りやすく、敵が攻めにくくするために、曲輪くるわの配置、堀の大きさ・深さ、土塁の形などにいろいろな工夫をしました。

城の出入り口を「小口こぐち」といますが、この「食い違い小口」もその工夫の一つです。小口の左右、または一方の土塁を屈曲させてS字形の通路にして、敵が攻めにくいようにしたものです。小口の形はいくつかの種類があります。

### 小口の種類



食い違い小口



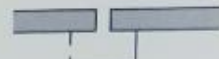
大陰の小口



一文字土居



外樹形



内樹形

曲輪3



曲輪3から東門方向を見る



東門近くで振り返って曲輪3を見る



東門近くから曲輪2の東屋を見る



最初の東門へ戻る



## 参考ホームページ

<http://www.city.fujimi.saitama.jp/30shisetsu/11nanbadajyo/2011-1222-1528-127.html>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/nanbatazyou.htm>

[http://www.f2.dion.ne.jp/~fumie.h/houjoh/siro/s\\_fujimi.html](http://www.f2.dion.ne.jp/~fumie.h/houjoh/siro/s_fujimi.html)

<http://blogs.yahoo.co.jp/joukakukenyuu/27821021.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/586882>

## 難波田氏館跡についての参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/tsukavan0112/subdir-siropage/nanbatasi.html>





蓮池





民家群が見えて来る



さまざまな石造物もある



資料館裏口



祈りと信仰



## 祈りと信仰

いたび いたいしとうば  
 板碑 (板石塔婆) は亡くなった人や先祖を供養するため、あるいは自分の死後の冥福を願って造立された供養塔で、鎌倉時代前期から戦国時代末期まで造られました。石材となる緑泥片岩の産地が荒川上流にあることから、これを素材とした「武蔵型板碑」が県内に多くのこされています。初期の板碑は比較的大型で、武士や僧侶などによって造られました。その後、一般の人々にも広がり、月待信仰や日待信仰によって結衆板碑が造られるようになりました。



阿弥陀三尊種子板碑

(市指定有形文化財)

嘉吉元年(1441)の年号が記され、月待板碑として日本最古のものです。鶴馬2丁目の権平川の岸から発見されました。年号のほかに弥九郎、九郎五郎などの、この板碑を造立した多くの男性信者の名前も刻まれています。





### 阿弥陀三尊種子板碑

(市指定有形文化財)

宝徳元年（1449）の年号が記されている月待板碑として初期のものです。鶴馬1丁目の三光院跡にあったものです。

年号のほかに「〇〇阿闍利」という僧侶の名や「禅門」を名乗る男性の出家信者の名前が刻まれています。



### 阿弥陀三尊種子板碑

元徳3年（1331）の年号が記されている難波田城跡出土の板碑の中で、最も古いものです。江戸時代の井戸跡の中から出土しました。阿弥陀三尊を表す梵字の種子や年号以外に、天蓋や花瓶が刻まれています。

かんのうのじょうらんとはねくらかつせん

観応の擾乱と羽祢蔵合戦-南北朝-(左)/難波田氏あらわる-鎌倉時代-



## 南北朝時代

### 観応の擾乱と羽祢蔵合戦

観応元年（1350）、室町幕府の將軍足利尊氏<sup>たかうじ</sup>とその弟直義<sup>ただよし</sup>の勢力争い（観応の擾乱<sup>のうじょうらん</sup>）が起きました。京都から鎌倉に逃れた直義を討つため、尊氏は翌2年11月に關東に向けて出兵し、12月に直義軍を駿河国薩埵山の合戦でうち破り勝利しました。

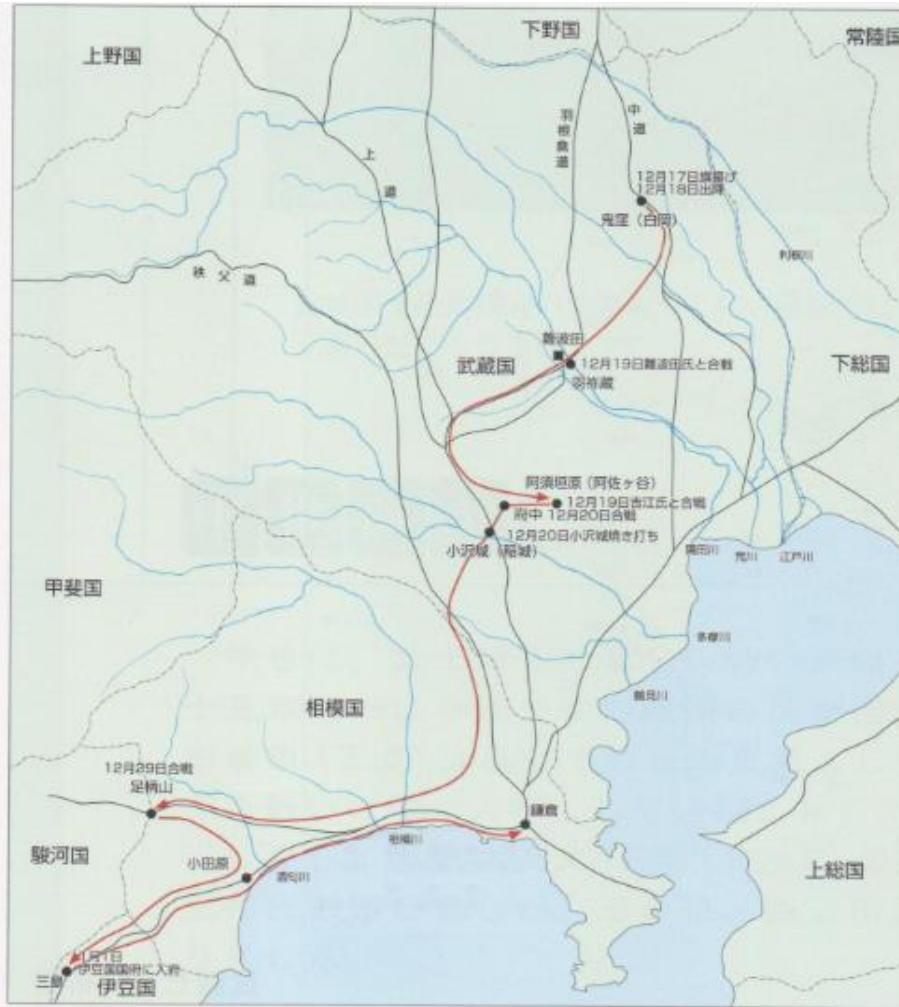
同年12月19日、尊氏に合流するため府中（東京都府中市）に向かう高麗経澄<sup>こま</sup>の軍勢と、それを迎え撃つ直義方の難波田九郎三郎の軍勢とが現在の志木市宗岡の羽根倉橋付近で合戦し、九郎三郎は敗れて討ち取られました。この合戦を「羽祢蔵（羽根倉）合戦」といいます。

#### 高麗経澄「軍忠状」<sup>ぐんちゆうじょう</sup>（複製）

（町田純一家蔵、埼玉県指定文化財）

軍功を大将に申告し承認を受けて、その後の恩賞の証拠としました。羽祢蔵合戦のことが記されています。





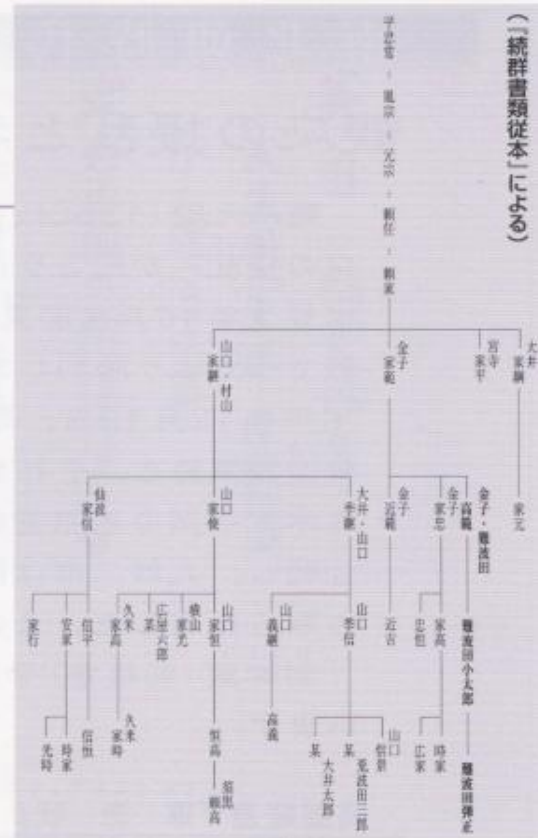
### 高麗経澄の行軍経路図

高麗経澄の軍忠状をもとに作成しました。  
 おにくぼ 鬼窪(埼玉県白岡町)で挙兵した高麗経澄は、鎌倉街道上道と中道を結ぶ羽根倉道を通して府中を目指しました。その途中の羽根倉で難波田氏の軍勢と合戦しました。当時、羽根倉は荒川(旧入間川)を渡る要所の一つでした。

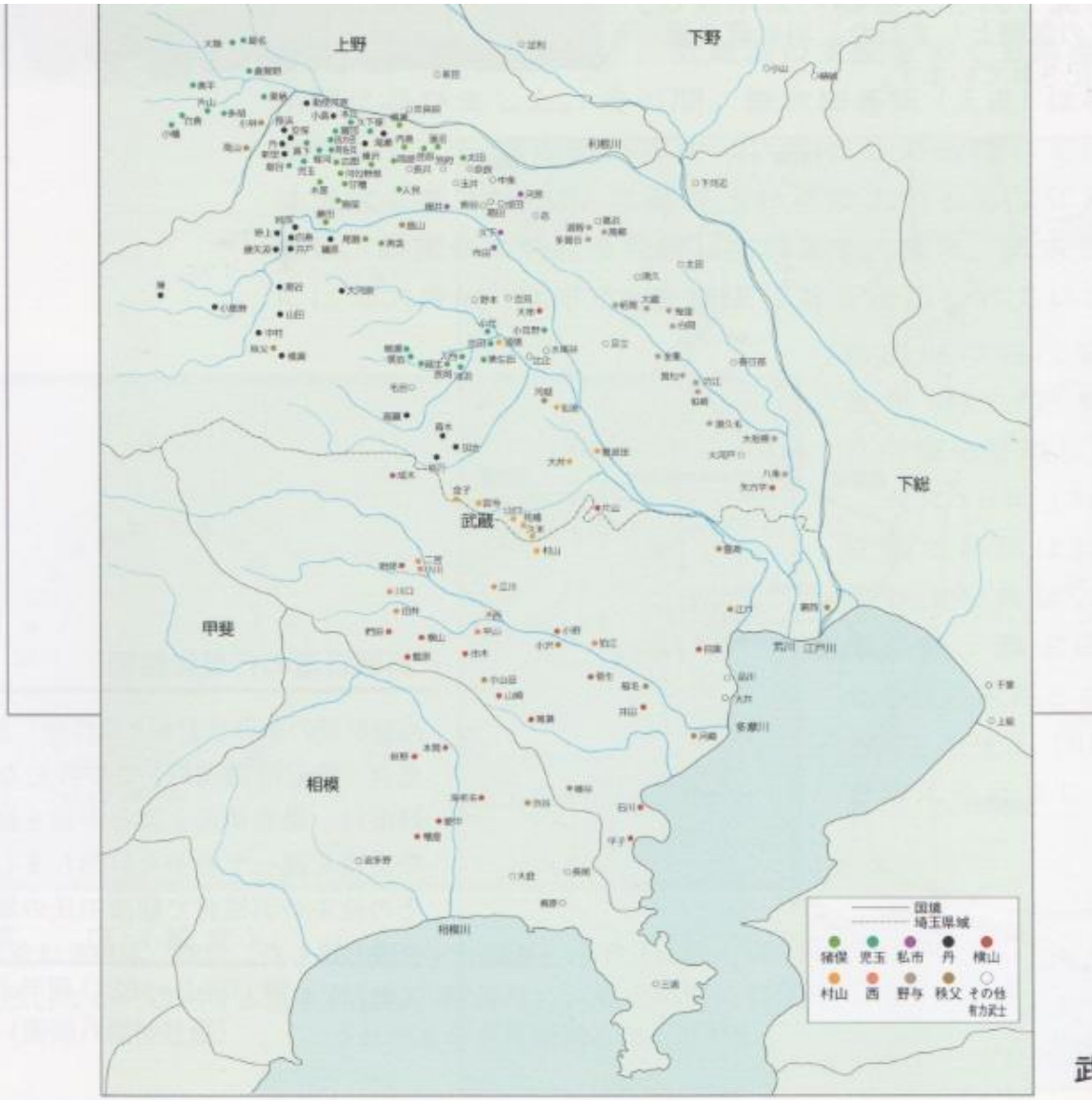
# 鎌倉時代

## 難波田氏あらわる

難波田氏は、金子高範を祖とする一族といわれています。金子氏は、平安時代末期に成立した武士団「武蔵七党」の一つ村山党に属する一族で、保元・平治の乱などで活躍しています。高範は鎌倉時代始めに幕府が朝廷と戦った承久の乱に幕府側として参戦して、討ち死にしました。その恩賞として難波田(南畑)の地がその子孫に与えられたようで、系図ではその子の小太郎から「難波田」を名乗ったとされています。そしてその子孫がこの地に居住するようになりました。



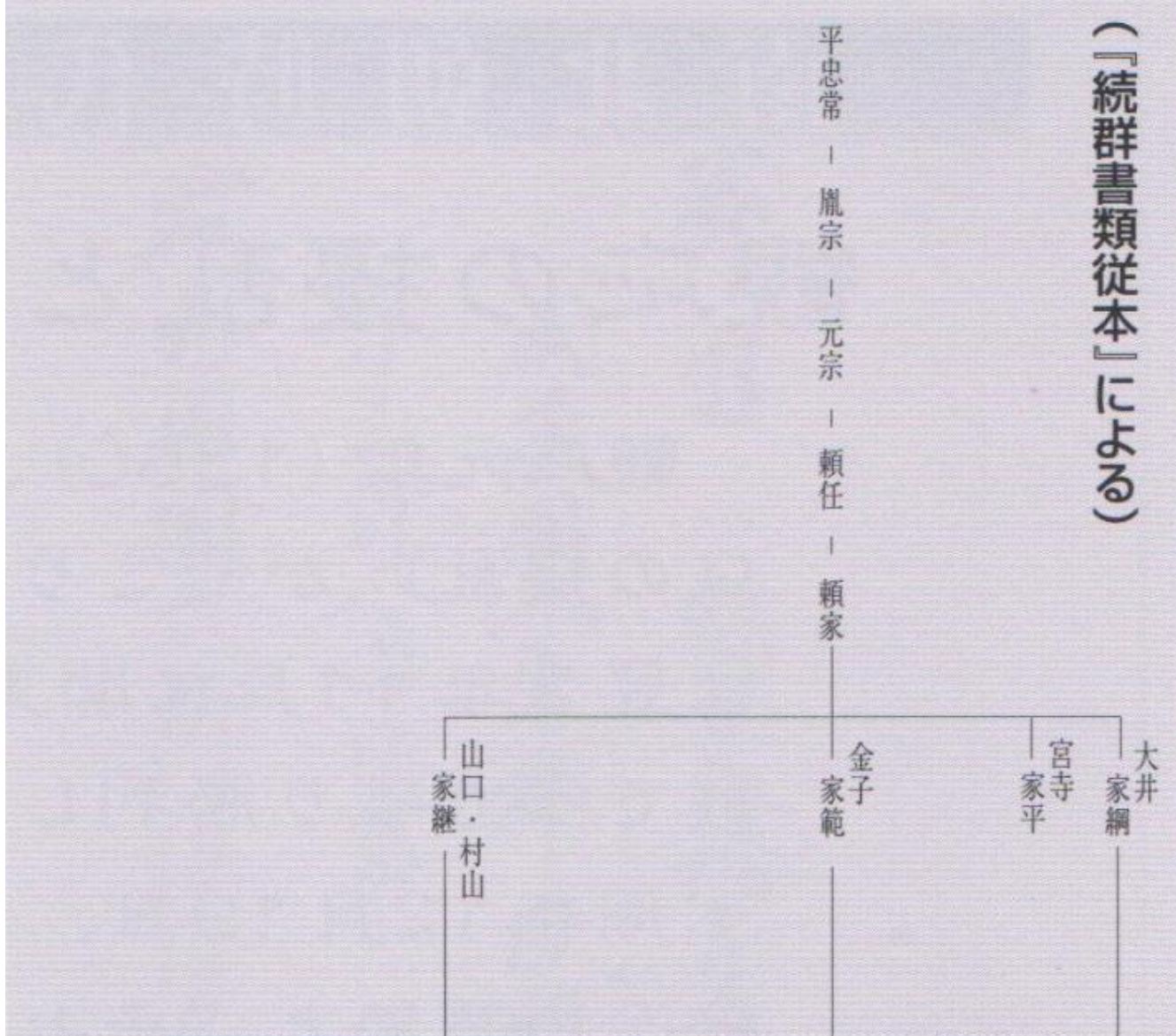
村山党金子氏系図

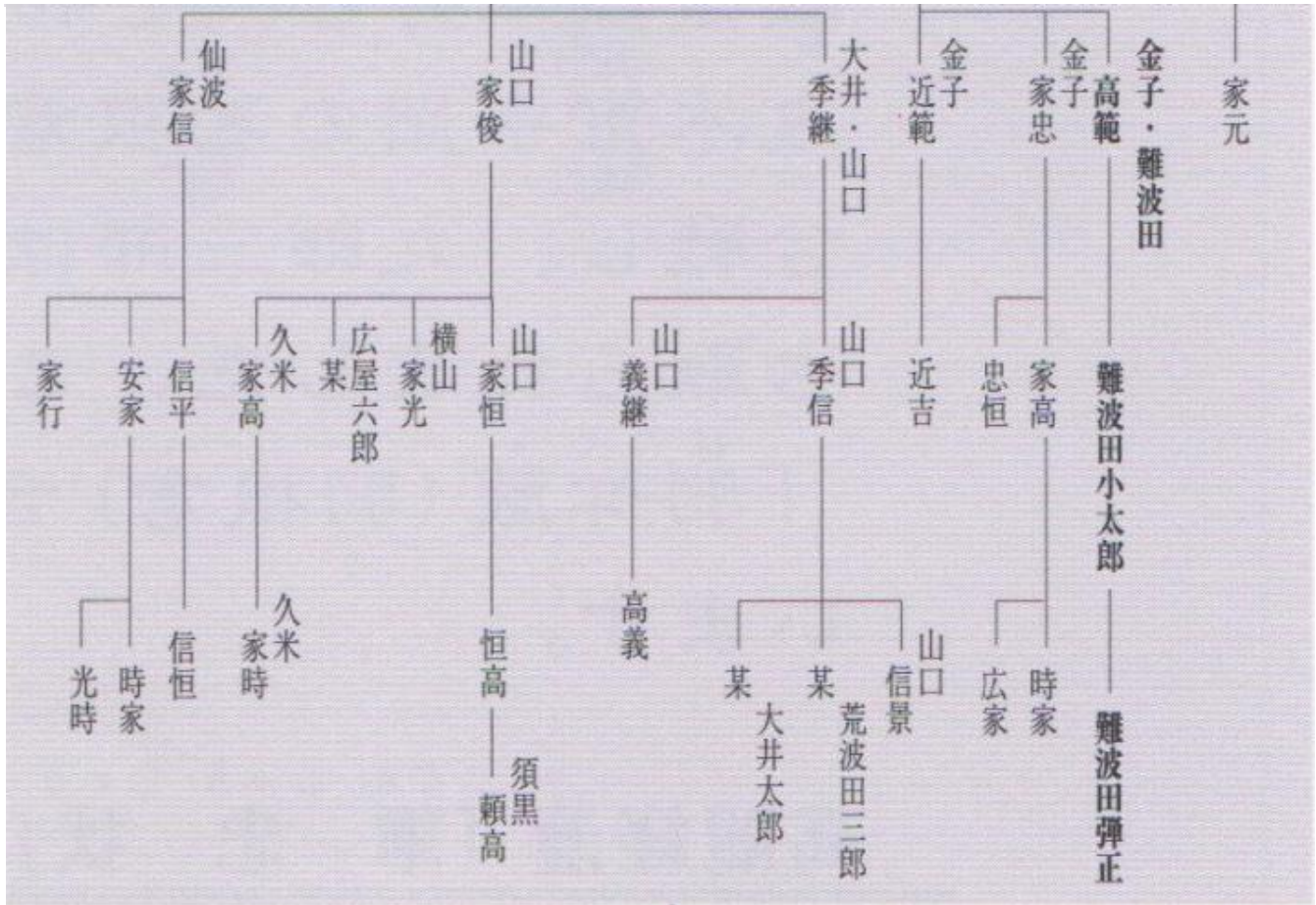


武蔵七党分布図

難波田城資料館図録より

拡大図





村山党金子氏系図



拡大図





難波田氏活躍す-戦国時代-



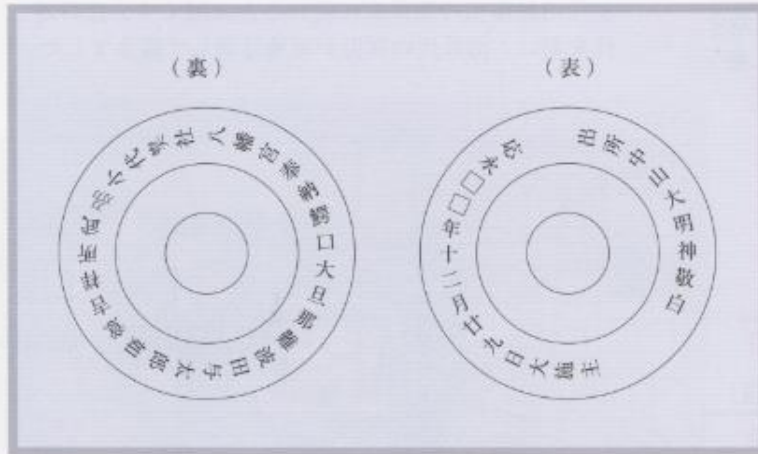
## 戦国時代

### 難波田氏活躍す

関東地方の戦国時代の前半は、<sup>おらきがやつ</sup>扇谷上杉氏と北条氏との争いを中心に展開しました。武蔵国の支配をめぐる両者の戦いは23年間に及びました。その間、難波田善銀（正直）は扇谷上杉氏の重臣として一連の戦いの中心人物として活躍しています。善銀は天文2年（1533）に扇谷上杉軍の大將として江戸・品川に出陣し、妙国寺に<sup>せいこつ</sup>勅札を発給しています。また、天文6年（1537）には<sup>じんたいじ</sup>深大寺城（調布市）を修復したと伝えられています。さらに、

松山城の城代をつとめ、報恩寺（越生町）に2度にわたり所領を寄進しています。

天文15年（1546）の河越夜戦で善銀は討ち死にし、扇谷上杉氏は滅びました。その後、難波田氏の一族は北条氏の家臣となり、棟岡（志木市）や池辺（川越市）に領地を与えられました。



<sup>おにぐも</sup>  
**鱧口（銘文）**  
応永年間（1394～1427）作  
（南畑八幡神社蔵）

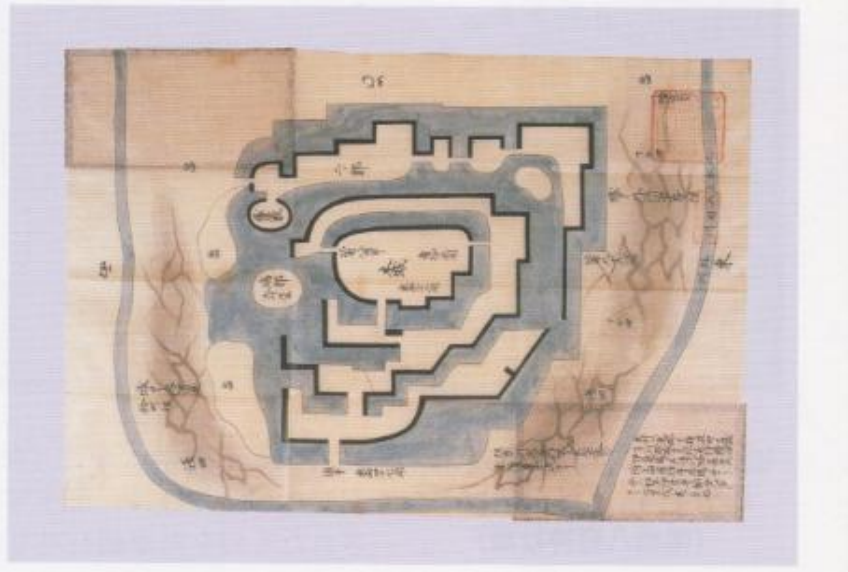
難波田与太郎が、小代（東松山市正代）の八幡神社に、応永年間に製作されたものを再奉納したものです。

絵図にみる難波田城跡

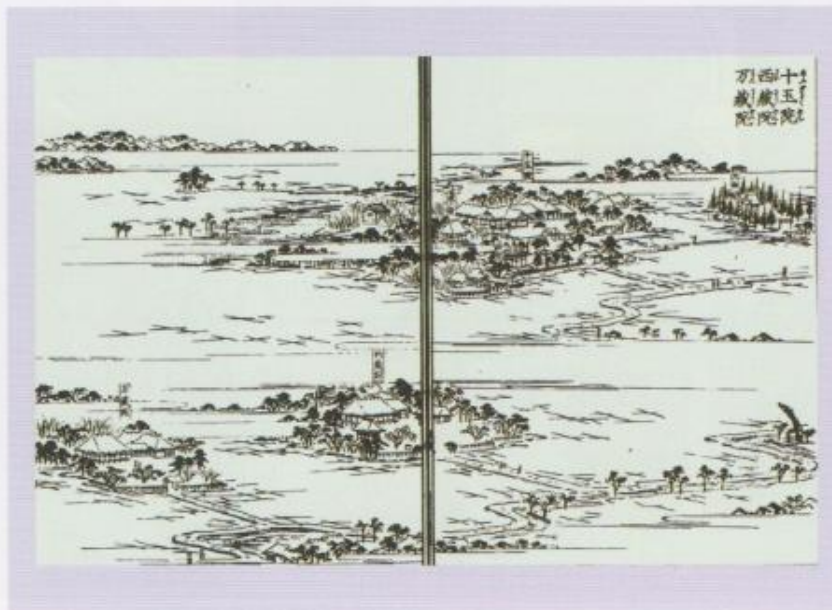


浅野文庫「武州入東郡下難波田古城図」  
(広島市立中央図書館蔵)

広島藩主浅野家が江戸時代中期に軍学のために集めた「諸国古城之図」の一枚です。  
117カ所の古城図が収録されています。



難波田城資料館図録より



江戸時代の難波田城跡

(「江戸名所図会」、国立公文書館蔵)

江戸時代になると難波田城跡に、十玉院じゅうぎょいんという修験寺院しゅうげんが置かれました。天保5年(1834)に刊行された江戸名所図会えどめいしよずえには十玉院とその周辺の風景が描かれており、当時の難波田城跡の様子を知ることができます。



- ① 曲輪1 くるわ
- ② 本城門 ほんじょう
- ③ 曲輪2
- ④ 復原木橋
- ⑤ 曲輪3
- ⑥ 曲輪4
- ⑦ 追手門 おうて
- ⑧ 水堀 しょうぶた
- ⑨ 菖蒲田
- ⑩ あずま屋

- ⑪ 十玉院主墓地 じゅうぎょくいん
- ⑫ 旧鈴木家表門
- ⑬ 旧大澤家住宅
- ⑭ 穀蔵 こくぐら
- ⑮ 文庫蔵
- ⑯ 旧金子家住宅
- ⑰ 納屋
- ⑱ 地域交流施設「ちよっ蔵」
- ⑲ 水塚 みづか
- ⑳ 水田



## 付録 難波田城主、難波田氏の歴史

難波田氏は、平安時代に成立した武士団、武蔵七党の一つ村山党に属する金子氏の一族です。難波田氏の祖とされる金子高範に難波田の地が与えられ、その子孫が鎌倉時代に当該地に館を構え、地名を名字として名乗ったのがはじまりと考えられます。

南北朝時代、室町幕府の将軍足利尊氏と尊氏の弟直義との抗争が起こります(観応の擾乱)。この戦に関連する資料として「高麗経澄軍忠状(日高市町田家文書)」が現存しています。軍忠状とは、合戦に参加した武士が、いつ、どこで、どんな働きをしたのかを書き記した文書のことで、後の論功行賞の際に重要な証拠となるものです。尊氏方として参戦した高麗経澄は、観応2年(1351)12月19日に、羽祢藏(志木市)付近で、難波田九郎三郎以下の輩を撃ち破ったと記載しています。羽祢藏と難波田は距離も近いことから、当時、難波田氏がこの地に館を構えており、観応の擾乱の際には直義側として戦って敗れたということを行うことができます。

観応の擾乱で勝利した尊氏は、その後、関東支配

企郡吉見町)の城代もつとめていました。

北条氏綱は、大永4年(1524)に武蔵国に進出をはじめ、江戸城を攻略し、扇谷上杉朝興は河越へと敗走します。享禄3年(1530)と天文2年(1533)に、朝興は善銀とともに江戸城の奪還を試みますが失敗しています。

天文6年(1537)4月に朝興が没し、家督はその子朝定が継ぎます。善銀は、朝定の命令により深大寺城(東京都調布市)を再興し、北条氏との合戦に備えますが、劣勢を挽回することはできず、7月には氏綱に河越城を攻め落とされてしまいます。敗れた朝定は善銀の守る松山城に逃れ、北条氏は武蔵国支配の重要な拠点を手に入れます。この河越城の攻防を描いた戦記物に「河越記」という資料があります。「河越記」では、善銀はかけひきをわきまえた勇者であり、教養もかねそなえた優れた人物として紹介されています。

天文14年(1545)になると、朝定は関東管領の山内上杉憲政や古河公方足利晴氏と結んで、河越城

の拠点として鎌倉府という機関を設置しました。その長官を鎌倉公方といい、足利氏が世襲しました。また、鎌倉公方を補佐する役職を関東管領といい、その地位は代々上杉氏によって受け継がれていました。この頃の難波田氏の動向を探る資料として、応永7年(1400)に鎌倉公方足利満兼が鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)に難波田小三郎入道の旧所領を六郷(東京都大田区)の代替えとして寄進したことを記した寄進状が残されています。

室町時代中期、応仁の乱(1467)が起こり、日本は1世紀以上にわたる長い戦乱の世を迎えます。関東地方でも、鎌倉公方と関東管領上杉氏とが対立し、関東を東西に二分して支配するようになり、上杉氏も山内家おうちがやつと扇谷家の2家で激しい抗争を繰り返していました。一方、新興勢力の北条氏が伊豆国、相模国を掌中に収め、さらに武蔵国進出の機会をうかがっていました。この頃、扇谷上杉氏の重臣として台頭してきたのが難波田善銀ぜんぎんでした。善銀は、扇谷上杉氏の江戸、河越に続く有力支城の一つである松山城(比

奪還のために出陣します。そして河越城を8万の大軍で包囲しました。その翌年、天文15年(1546)4月20日の夜、8千の精鋭を引き連れた氏綱の子氏康は、包囲軍に奇襲をかけ勝利を収めます(河越夜戦)。この戦いで総大将の朝定は討死し、また家臣の善銀も討死してしまいます。

河越夜戦の勝利をきっかけに、北条氏は武蔵国をほぼ手中に収めることになりました。永禄2年(1559)に作成された「小田原衆所領役帳おだわらしゅうしゅうりょうやくちょう」によると、難波田氏は北条氏の家臣となり、棟岡(志木市)や池辺(川越市)を知行地として与えられ、難波田の地は上田左近という人物の知行地となっています。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の関東侵攻の際に前田利家の率いる軍勢が松山城を攻撃しましたが、降伏した籠城兵の中に難波田憲次など難波田氏の一族も含まれていました。憲次は、その後は山城国嵯峨さやまに隠退し、その子憲利は、徳川家康、秀忠親子に仕えました。